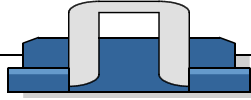


児童生徒の規範意識を醸成するために、 学校、家庭はどんなことに取り組むと有効なのでしょう？

「群馬県の6000人の児童生徒、保護者、教員へのアンケート調査」と
「訪問調査」をもとに、提言します！



アンケート調査の概要と特徴

<概要>

○調査の目的 「児童生徒の規範意識を醸成するために、学校、保護者、地域は、何に重点を置いて、どのように取り組むことが効果的なのかを明らかにする。

○調査の内容

- ・児童生徒の「規範を守ろうとする意識」と「規範を守る行動」についての実態
- ・児童生徒の意識と行動の相関について
- ・児童生徒と保護者、教員のとらえ方の相違について
- ・保護者、教員は、どんなことに取り組むとよいのか
- ・保護者、教員は、どんなことを望んでいるのか

○調査の対象 群馬県内の児童生徒、保護者、教員 約6000人

	児童生徒	保護者	教員
小学校	1051人	1067人	174
中学校	1823人	1713人	150

○調査期間 平成18年7月12日～21日

<特徴>

- 「意識」と「行動」の両面について問い、両者の相関を見られるように項目設定をした。
- 児童生徒と保護者、教員に同じ質問項目を入れ、両者を比較できるようにした。
- 保護者、教員に対しては記述式も入れ、要望や考えを聞くことができるようにした。
- 指導要録中の“行動の記録”の評価項目と「ぐんまの子どものためのルールブック50」の内容を質問に反映させ、アンケート結果を学校や家庭で活用できるようにした。



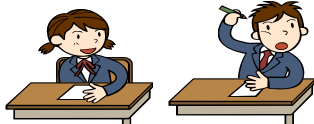
訪問調査の概要

○調査の目的 「家庭と学校が連携を図るためのプログラム」や「児童生徒に対する効果的な指導プログラム」を開発する。

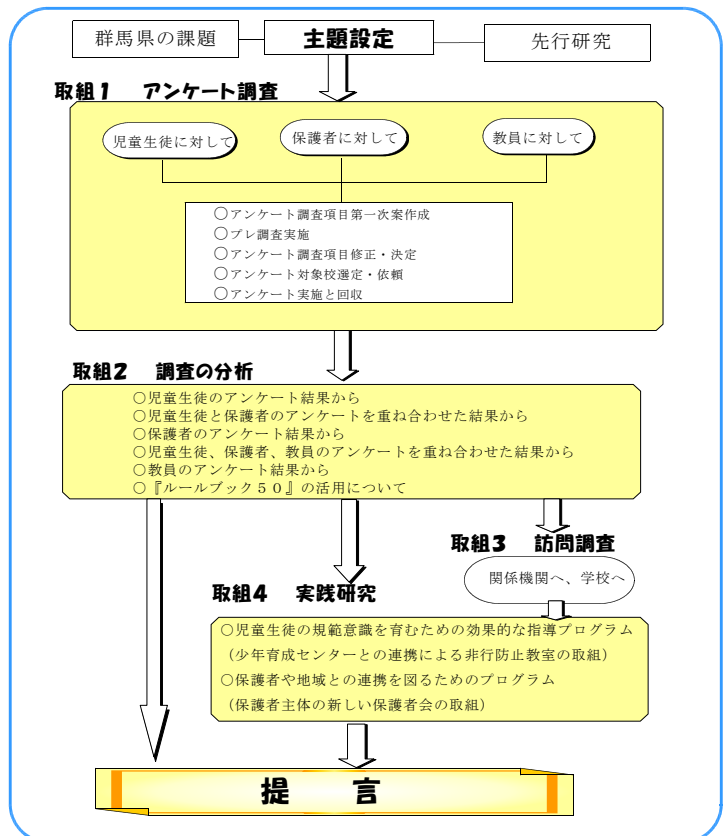
○調査の内容

- ・青少年健全育成機関や学校ではどのような指導やプログラムが実践されているのかについて
- ・どのようなプログラムが効果的で、どのようなプログラムが望まれているのかについて

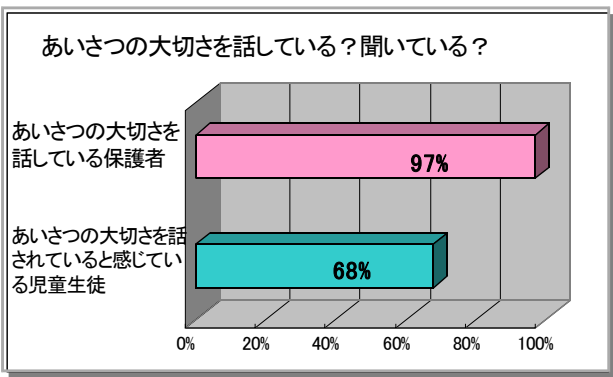
○調査の対象
群馬県警察本部少年育成センター
群馬県内の小中学校



研究の全体構成



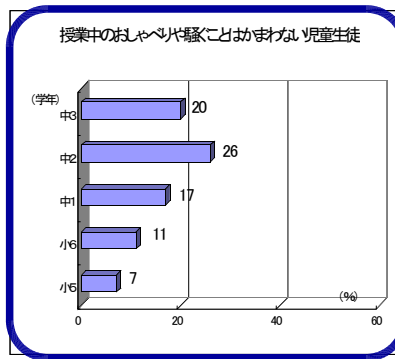
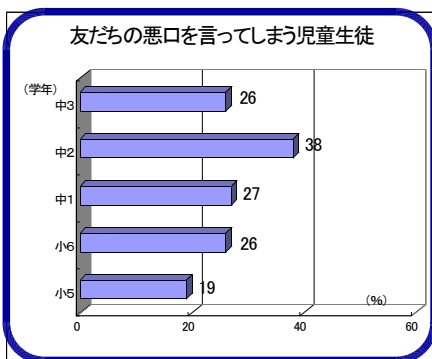
アンケート調査や訪問調査、実践研究から、こんなことが分かりました！



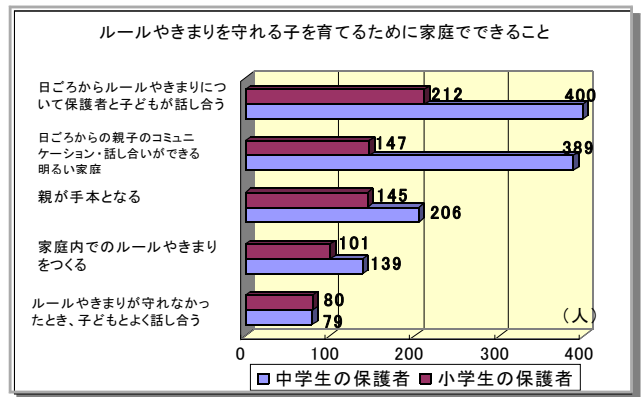
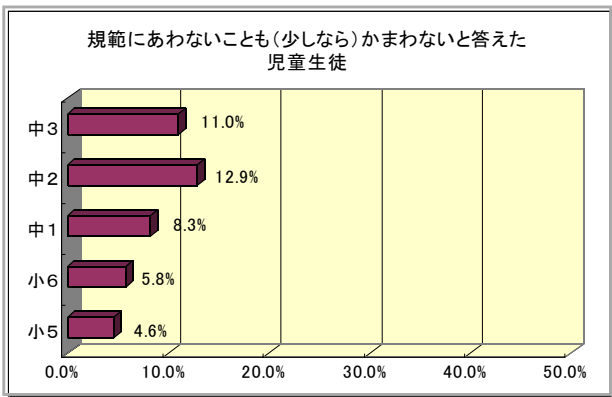
あいさつの大切さについて子どもに「話している」と答えた保護者は、ほぼ100%。これに対して、あいさつの大切さについて親から「話されている」と感じている児童生徒は、68%。ここに、「親子の意識のズレ」が見られる。この傾向は教員と児童生徒の間にも見られた。「伝えつつも、でも実際には伝わっていない」「分かったつもり、でも実際には分かっていない」のではないかな。

大人は子どもの姿をつかみ切れていない！

子どもたちの実態をつかんでいますか？》》》 提言1へ



「友達の悪口を言うてしまう」「授業中のおしゃべりはおかまわない」と考えている児童生徒は学年が上がるにつれて増加していく。つまり、**学年が進むにつれて規範意識が低下する**。また、規範意識は**中学2年生で最も低くなる**。



「規範にあわないことも(少しなら)かまわない」と答えた児童生徒は、平均で約9% (40人学級なら3~4人)。これらの児童生徒の規範意識を醸成するために、**規範を守ろうとする91%の子どもたちの力を使うこと**が効果的だと思われる。

保護者は、「ルールやきまりを守れる子」を育てるためには、**親子で話すことの重要さ**を認識している。教員へのアンケートでも、教員同士、教員と子ども、教員と保護者など、**話し合いながら進めていくこと**が大事であるという回答が多かった。

話し合うことの大切さは分かったけれど、どうやって話し合えばいいの？

》》》 提言2へ

こんな実践をしてみました！

「話し合い活動を取り入れた非行防止教室」・・・児童生徒同士の力を生かして規範意識を高める。

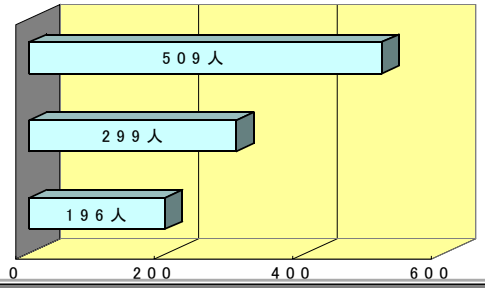
「保護者主体の新しい保護者会」・・・協力して子どもたちを育てていこうという保護者同士の連帯感を育てる。

子どもたちの規範意識を育むために学校・家庭・地域が連携して何ができるのか

地域全体で子どもをほめたり、注意したりする

大人の情報交換と同一歩調での指導

大人が子どもの手本になる行動をする

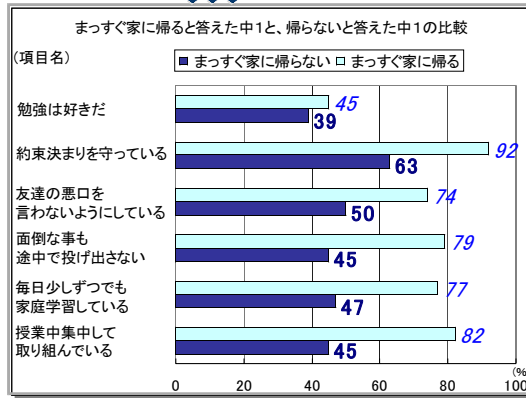
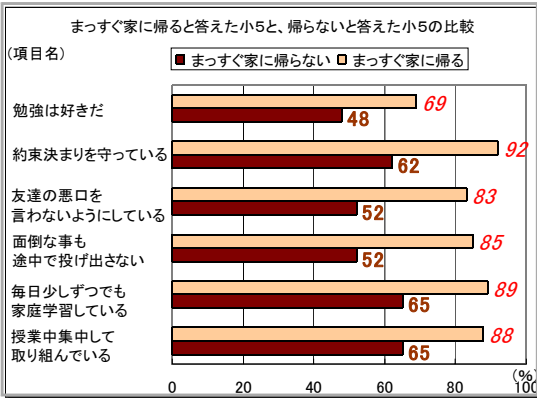


児童生徒の規範意識を醸成するためには、「**大人がみんなで子どもに声を掛けること、大人がみんなで力を合わせる**こと、**大人が子どもの手本になること**。」これらの大切さを大人自身が認識している。この認識を「連携」に生かしたい。

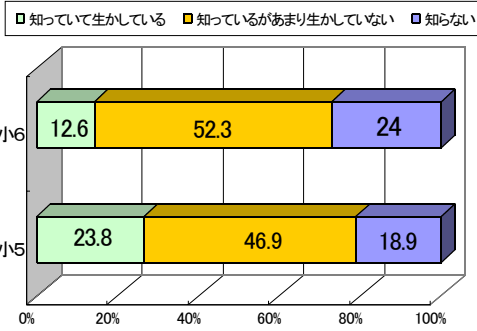
「まっすぐ家に帰る」という質問と規範に関わるいくつかの項目の相関関係を調べると「**まっすぐ家に帰る子は、規範意識が高い**」ことが明らかになった。他にも、「あいさつ」「掃除」「手伝い」などふだんの生活の中にある**あたりまえのこと**が、規範意識に大きく関連することが分かった。

力を合わせてどんなことから取り組みばいいの？

提言3へ



児童は「ルールブック50」を知っていて生かしているか



『ルールブック50』を「知らない」「生かしていない」と回答した小学校5年生は76%。6年生は87%。

小学生に配布されている『ぐんまの子どものためのルールブック50』は、**まだ十分活用されていない**。



『ルールブック50』を生かしている児童が勉強についてどう思うかを調べると、「**『ルールブック50』を生かしている児童の方が、勉強が好き**」であることが分かった。この傾向はその他の項目でもみられた。『ルールブック50』は規範意識を醸成するだけでなく、**児童生徒の勉強や生活にも良い影響を与える**と考えられる。

ぐんまの子どものためのルールブック50は、どんな影響があるの？

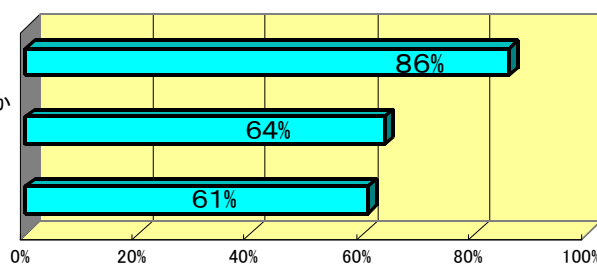
提言4へ

勉強が好きだと答えた小学生の割合(小5)

ルールブックを生かしていると答えた5年生

ルールブックを知っているが生かしていないと答えた5年生

ルールブックを知らないと答えた5年生



提言

児童生徒の規範意識を醸成するために、
学校や教員は次のことに取り組みましょう。

提言1 子どもの実態を正確に把握しましょう

親と子や、教員と子どもたちの間には、物事や行動のとらえ方にズレがみられます。大人から見ている子どもたちの実態は、ほんの一部分のようです。大人は、子どもの実態を正確に把握することが規範意識を醸成することの第一歩です。

『家庭・家でのルールやきまりに関するアンケート』を活用してみませんか。観察やふだんの行動だけでは分からない子どもたちの意識が見えてきます。

提言2 「話し合い活動を取り入れたプログラム」を活用しましょう

規範意識を醸成するためには話し合いが大切です。学校は話し合いの場を積極的に作っていきましょう。

少年育成センターと連携して作成した『話し合い活動を取り入れた非行防止教室』のプログラムを活用すると、規範意識の高い子どもの考えが、話し合いの中で規範意識の低い子どもの考えに良い影響を与えることが期待できます。また『保護者主体の新しい保護者会』のプログラムを活用すると、保護者同士が、話し合いの中で考え方の違いを認め合いながら、お互いに協力していこうという連帯感をもつことができます。

このような取組から、教員や保護者、児童生徒が話し合いの大切さを再認識し、様々な場面で話し合いの場を作っていくことが期待できます。

提言3 家庭や地域と力を合わせて、できることからやってみましょう

「学校から寄り道をせずにまっすぐ家に帰る」ことや、「あいさつをする」という行動は、規範意識を醸成することに大きく関連します。子どもたちにこのような基本的な生活習慣を身につけさせるために、学校は保護者と協力して、すぐに取り組みるところから進めていきましょう。

また、地域で力を合わせたり、大人が手本になったりすると効果的だという保護者の気持ちを生かして、学校は情報交換や話し合いをする場を提供していくことも大切です。

たくさんの人の考えから出された規範意識を醸成するための方策は、特別なことではなく、「みなが“あたりまえ”に思っていることを力を合わせて徹底してやっていくこと」です。

提言4 「ぐんまの子どものためのルールブック50」を活用しましょう

『ルールブック 50』は、規範意識を醸成するだけでなく、子どもたちの勉強や生活にも良い影響を与えることが分かりました。『ルールブック 50』についての認識を深め、十分に活用しましょう。

具体的な活用例として、「規範意識を醸成する『道徳プログラム』」（平成 17 年 群馬県総合教育センター）では、チェックリストの活用を取り入れています。また、G-T a Kのコンテンツを利用して道徳の授業中に取り入れたり、教室や廊下に掲示したり、カードにして一日の目標を決めたりする活動例があります。

また、学校や家庭で重点的に取り組む内容を子どもたちと話し合っ決めて決めることも効果的です。自分たちで話し合っ決めて決めたことは、その重要性をよく理解し、守ろうとする意識が高くなるようです。群馬県教育委員会が作成したチェックリストもこのような取組に活用できます。



問い合わせ先 群馬県総合教育センター 積極的な生徒指導調査研究チーム
カリキュラムセンター 0270-26-9208